

観光資源等保全特別委員会行政視察報告

7月4日から5日にかけて、委員8名、議長、市当局1名、事務局随行者2名で、岐阜県高山市、下呂市を訪問し、高山市SDG未来都市計画、下呂市の観光計画、廃業宿泊施設の更新に関する経験について視察してまいりました。

■岐阜県高山市

【高山市SDG未来都市計画について】

【高山市歴史的風致維持向上計画について】

高山市は国土のほぼ中央に位置し、人口が約8万5千人ほどの市において、現在はコロナ禍により観光客の入込者数は落ち込んでいますが、コロナ禍前では、国内外から年間約500万人が訪れる国際観光都市です。

高山市では、町並みの保存に積極に取り組んでおり、伝統的建造物群保存地区の指定を受けている各地区には町並み保存会があります。この保存会は、町内会をさらに細分化した祭りの組織である屋台組(やたいぐみ)を基に作られており、組織のつながりが強固で、町並み保全に重要な役割を担っているとのことでした。

今後の課題としては、いかに建物の特徴や歴史を尊重して、町並みを残していくか、また、少子高齢化による中心市街地の空洞化に伴う担い手不足の対策が上げられるとのことでした。

次に、高山市歴史的風致維持向上計画について、説明を受けました。

高山市歴史的風致維持向上計画の第一期は平成20年度から平成29年までの10年間、第二期は平成30年度から令和6年度までの7年間となっています。

第一期計画では、町並み景観の向上の取組として、無電柱化事業や景観重要建造物の指定、野外広告物、建築物基準の見直し、また、周辺施設との調和に配慮した景観への取組を行っていました。

第二期計画では、歴史的建造物活用整備事業の一環として、歴史的建造物保存・活用を図るため、空き家となった町屋等を取得または、借り上げ、修理・修景を行い、地域の歴史的風致の核となる施設として整備するなど取組を行っていました。

これらの取組を行うことで、町並み、景観の再生を図り、賑わいの創出を目指しているとのことでした。



岐阜県高山市

■岐阜県下呂市

【下呂市の観光計画について】

【廃業宿泊施設の更新に関する経験について】

下呂市は岐阜県の中東部に位置し、平成16年3月に当時の益田郡(ましたぐん)の5町村が合併し、誕生しました。総面積のうち約9割が山林であります。

下呂市には、特色のある自然・文化資源が多く点在しており、そういった資源を持続的に保全・活用し、継承していくため、「自然・文化資源を活用した観光まちづくり」、「資源の持続的

保全にかかる仕組みづくりと環境教育の促進」、「持続可能な活動と地域活性化のための循環づくり」を目的としたエコツーリズムを推進しているとのことでした。また、観光地域づくり法人(DMO)とエコツーリズムの連携体制「E-DMO」を組織し、観光資源のPRツールの作成やプロモーション、フラッシュアップ及び商品造成を行っているとのことでした。

また、廃業となった旅館跡地を整備し、建設された下呂市観光交流センター「湯めぐり館」を見学し、土地の取得から建設に至るまでの対応について、説明を受けました。



岐阜県下呂市

■視察を終えて

今回視察した事例を参考に、景観の整備や廃業施設への対応などの課題解決に向けて調査・研究を進めていきたいと思っております。